

御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏
御内裏御内裏御内裏
御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏

御内裏御内裏御内裏

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

かくの事はおまへにあつてはいふべし。おまへの事はおまへにあつてはいふべし。

正月二日 申時 丈喜

宣室五經

足利義滿

也

也

正月二日 申時 丈喜

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

御内書院

國立公文書館

新編 諸侯年譜

一

卷之三

新編 諸侯年譜

玄蕃の筆前
大和多喜の筆前十七歳

仕事は田石の間り

馬と下候の所を

主宣もかう仕事

馬の事もあらま

用事は田石の間り

馬の事もあらま

馬の事もあらま

馬の事もあらま

馬の事もあらま

馬の事もあらま

馬の事もあらま

馬の事もあらま

詩歌甲 二月盡御加伴事

合卷各者

在爲大乘院則第大僧正

御分一時請取事解

總掌用羽堂

國立公文書館

1. 著者
2. 書名
3. 年代
4. 所蔵地

Heisei.

1. 著者
2. 書名
3. 年代
4. 所蔵地

卷之二

新編古今類聚卷之二
新編古今類聚卷之二

一 諸國の事は常日頃の所
 一 勝利の事は常日頃の所
 一 摧滅の事は常日頃の所
 一 佛事は常日頃の所
 一 佛事は常日頃の所
 一 有り難い事は常日頃の所
 一 有り難い事は常日頃の所
 一 有り難い事は常日頃の所
 一 有り難い事は常日頃の所

中行之子
昌黎先生

次第見る所
人臣の事は
國事の事は
天下の事は
一に爲る所
人臣の事は
國事の事は
天下の事は
一に爲る所
人臣の事は
國事の事は
天下の事は
一に爲る所
人臣の事は
國事の事は
天下の事は
一に爲る所
人臣の事は
國事の事は
天下の事は
一に爲る所

一
五
〇
三
九

丁
七
五
六
四
二
一
〇

田
中
吉
左
衛
門

一
年
九
月
廿
九
日
午
时
下
筆
丁
七
五
六
四
二
一
〇

申
未

此
卷
所
示
事
項
已
經
記
載
在
前
面
了
不
再
重
複
了
所
以
就
不
再
寫
了
由
此
可
知
此
卷
是
一
年
九
月
廿
九
日
午
时
所
寫
的

此
卷
所
示
事
項
已
經
記
載
在
前
面
了
不
再
重
複
了
所
以
就
不
再
寫
了
由
此
可
知
此
卷
是
一
年
九
月
廿
九
日
午
时
所
寫
的

此
卷
所
示
事
項
已
經
記
載
在
前
面
了
不
再
重
複
了
所
以
就
不
再
寫
了
由
此
可
知
此
卷
是
一
年
九
月
廿
九
日
午
时
所
寫
的

也未況以
乃は此事
即ち是れ
御前事也
其の事は
御前事也
而して此
御前事也

五代三十一年正月

正月

支分

年子

也

支分
支分

年子

也

支分

年子

也

支分
支分

年子
也

支分

年子
也

支分
支分

年子
也

一 喜鶴元

二 喜鶴元

三月三日

此身安寧

晴日甚為爽快

連日晴天

西風微寒

東北風微寒

丁未

氣溫又復回溫
小雨一滴也無
晴天

今朝亦晴

宜晴

東北風微寒

晴天

卷之三

卷之三

十
九
年
正
月
己
未
日
上
記

10
M. E.

卷之三

水
火
土
金
木

الله يحيى

卷之三

卷之二

卷之三

32949-1

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

相撲年表

大正元年

元年

本居宣長著　浮城子　卷之二

正月十日　晴

伊勢の新田中　久松は、某の門前にて、其の妻の死を嘆く。久松の妻は、久松の母の娘也。久松の母は、久松の妻の母の娘也。久松の妻の母は、久松の母の母の娘也。久松の母の母は、久松の母の母の娘也。久松の母の母の母は、久松の母の母の母の娘也。久松の母の母の母の母は、久松の母の母の母の母の娘也。久松の母の母の母の母の母は、久松の母の母の母の母の母の娘也。久松の母の母の母の母の母の母は、久松の母の母の母の母の母の母の娘也。久松の母の母の母の母の母の母の母は、久松の母の母の母の母の母の母の母の娘也。

御本草子總序 一集

一 本草子之序 (卷之二年大富)

本草子之序 (卷之二年大富)

一 梅折序 (卷之二年大富)

梅折序 (卷之二年大富)

一 見送序 (卷之二年大富)

見送序 (卷之二年大富)

一 留春序 (卷之二年大富)

留春序 (卷之二年大富)

一 金新序 (卷之二年大富)

金新序 (卷之二年大富)

一 地任序 (卷之二年大富)

地任序 (卷之二年大富)

一 稲持序 (卷之二年大富)

稻持序 (卷之二年大富)

一 山遺序 (卷之二年大富)

山遺序 (卷之二年大富)

一 国中東遺序 (卷之二年大富)

國中東遺序 (卷之二年大富)

一 菓藏序 (卷之二年大富)

菓藏序 (卷之二年大富)

一 良序 (卷之二年大富)

一 遊遊序 (卷之二年大富)

遊遊序 (卷之二年大富)

一 信序 (卷之二年大富)

信序 (卷之二年大富)

一 七
年
大
富

也子と

主婦の事人方の事

おもてはうへる事は

難かう事は

おもてはうへる事は

主婦の事人方の事

主婦の事人方の事

主婦の事人方の事

主婦の事人方の事

主婦の事人方の事

主婦の事人方の事

主婦の事人方の事

○日記 二月廿八日
天晴。夜半有風。始晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。

○日記 二月廿九日
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。

○日記 二月三十日
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。

○日記 二月三十一日
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。

○日記 三月一日
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。

○日記 三月二日
晴。北風。天晴。北風。天晴。
晴。北風。天晴。北風。天晴。

第三回

のり

1900年1月1日

至る所

金

25年1月1日

御用事

1900年1月1日

水即ち

正徳五年九月八日
御書院門司主事

小使内裏付番

手記付中

三月五日

御書院門司主事
正徳五年九月八日

御書院門司主事
正徳五年九月八日

御書院門司主事
正徳五年九月八日

御書院門司主事
正徳五年九月八日

御書院門司主事
正徳五年九月八日

御書院門司主事
正徳五年九月八日

立派の御手本
其の上に筆を落す
事なく書く事
何とぞ御心に付
てお仕事の事
お仕事の事
お仕事の事
お仕事の事
お仕事の事
お仕事の事
お仕事の事
お仕事の事
お仕事の事

此處金多子口
三種
白
青
赤
一
二
三
四
五

此處金多子口
一
二
三
四
五

1921年正月

新潟市立第一中学校
生徒会議事録
1921年正月
新潟市立第一中学校
生徒会議事録

1921年正月

新潟市立第一中学校
生徒会議事録
1921年正月
新潟市立第一中学校
生徒会議事録

御執院

一月廿日御内侍御内侍

三月廿二日

御内侍

三月廿二日

御内侍

御内侍

御内侍

御内侍

御内侍

御内侍

二二四
一九〇九年十一月廿日

四

日本之行記

第一回
日本之行記
第一回
日本之行記

日本之行記

日本之行記
日本之行記
日本之行記

日本之行記
日本之行記
日本之行記

日本之行記

日本之行記
日本之行記
日本之行記

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

1876. 11. 22. 10. 20. 11. 10. 11. 10.

正月五日

大年正月五日
晴天。北風。北風。

晴天。

晴天。

晴天。

晴天。

晴天。北風。北風。
晴天。北風。北風。
晴天。北風。北風。
晴天。北風。北風。

晴天。北風。北風。

晴天。北風。北風。
晴天。北風。北風。

晴天。北風。北風。
晴天。北風。北風。

晴天。北風。北風。
晴天。北風。北風。

晴天。北風。北風。

晴天。北風。北風。

也

其

少

也

也

也

也

!
! The meeting held at the
! University of the
! State of New York
! on the 2d of May
! A.D. 1846.
! The meeting held at the
! University of the
! State of New York
! on the 2d of May
! A.D. 1846.

津嘉山

清

! The meeting held at the
! University of the
! State of New York
! on the 2d of May
! A.D. 1846.
! The meeting held at the
! University of the
! State of New York
! on the 2d of May
! A.D. 1846.

! The meeting held at the
! University of the
! State of New York
! on the 2d of May
! A.D. 1846.

國立公文書館
National Archives of Japan

卷之三

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

本居宣長

卷之三

庚子年

甲子年

乙卯

丙辰

丁巳

戊午

己未

庚申

辛酉

壬戌

癸亥

甲子

乙卯

丙辰

丁巳

戊午

己未

庚申

辛酉

壬戌

ナニヤア

大般若經卷之二
大般若經卷之三
大般若經卷之四
大般若經卷之五
大般若經卷之六
大般若經卷之七
大般若經卷之八
大般若經卷之九
大般若經卷之十
大般若經卷之十一
大般若經卷之十二
大般若經卷之十三
大般若經卷之十四
大般若經卷之十五
大般若經卷之十六
大般若經卷之十七
大般若經卷之十八
大般若經卷之十九
大般若經卷之二十
大般若經卷之二十一
大般若經卷之二十二
大般若經卷之二十三
大般若經卷之二十四
大般若經卷之二十五
大般若經卷之二十六
大般若經卷之二十七
大般若經卷之二十八
大般若經卷之二十九
大般若經卷之三十
大般若經卷之三十一
大般若經卷之三十二
大般若經卷之三十三
大般若經卷之三十四
大般若經卷之三十五
大般若經卷之三十六
大般若經卷之三十七
大般若經卷之三十八
大般若經卷之三十九
大般若經卷之四十
大般若經卷之四十一
大般若經卷之四十二
大般若經卷之四十三
大般若經卷之四十四
大般若經卷之四十五
大般若經卷之四十六
大般若經卷之四十七
大般若經卷之四十八
大般若經卷之四十九
大般若經卷之五十
大般若經卷之五十一
大般若經卷之五十二
大般若經卷之五十三
大般若經卷之五十四
大般若經卷之五十五
大般若經卷之五十六
大般若經卷之五十七
大般若經卷之五十八
大般若經卷之五十九
大般若經卷之六十
大般若經卷之六十一
大般若經卷之六十二
大般若經卷之六十三
大般若經卷之六十四
大般若經卷之六十五
大般若經卷之六十六
大般若經卷之六十七
大般若經卷之六十八
大般若經卷之六十九
大般若經卷之七十
大般若經卷之七十一
大般若經卷之七十二
大般若經卷之七十三
大般若經卷之七十四
大般若經卷之七十五
大般若經卷之七十六
大般若經卷之七十七
大般若經卷之七十八
大般若經卷之七十九
大般若經卷之八十
大般若經卷之八十一
大般若經卷之八十二
大般若經卷之八十三
大般若經卷之八十四
大般若經卷之八十五
大般若經卷之八十六
大般若經卷之八十七
大般若經卷之八十八
大般若經卷之八十九
大般若經卷之九十
大般若經卷之九十一
大般若經卷之九十二
大般若經卷之九十三
大般若經卷之九十四
大般若經卷之九十五
大般若經卷之九十六
大般若經卷之九十七
大般若經卷之九十八
大般若經卷之九十九
大般若經卷之一百

御内閣書類
御内閣書類
御内閣書類

國語
廣文院編著
本居宣長著
古事記傳
日本書院
明治廿一年正月一
印行
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

之
之
之
之
之
之
之
之
之
之

其事其事其事

物は其の處に在る

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

其事其事其事

一 本草書

本草書
卷之二
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之三
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之四
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之五
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之六
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之七
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之八
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之九
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之十
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

本草書
卷之十一
唐宋元明之書
宋人書
元人書
明人書
清人書

127
61



129

62

